

## 2年日本史 1学期中間試験 問題用紙 2000/05/16

(解答は正しい漢字でていねいに書くこと)

第1問 暦について以下の問に答えよ。(5)

問1 紀元前をB.C.とあらわすが、B.C.とは何の略か、英単語2語で記せ。

問2 A.D.57年は何世紀にあたるか。

問3 次の説明文が正しければ、誤りなら×を記せ。

(1) 旧暦(太陰暦)の1月1日は必ず満月である。

(2) 現在の暦では、うるう年は必ず4年に一回の割合で設けられている。

(3) 日本の暦が太陰暦から太陽暦に変更されたのは1945年のことである。

第2問 旧石器時代について問に答えよ。(17) 22

新生代第4期の大部分の時期(約200万年前から約1万年前まで)を(1)という。この時期は、(2)が発達したので(2)時代ともいう。氷期には日本列島は大陸と陸続きになり、シベリアからは(3)が、また中国・朝鮮半島からは(4)や(5)などの大型動物が渡来した。(1)時代の人骨としては、愛知県で発見された(6)人がある。(1)のあと、現在に至る約1万年の時期を(7)という。

石を道具・利器の材料として使用した時代を石器時代という。小石を打ち欠いた(8)石器や動物の骨・角などを道具とし、土器の製作を知らず、狩猟・漁労・採取生活をしていたのが旧石器時代である。(8)石器の中で、木や骨の縁にはめ込んで使用した石器を(9)といい、これが使用された時代を特に中石器時代ともいう。(7)時代に入り、(8)石器より鋭利な(10)石器や土器を製作使用したのが新石器時代である。ただし日本の新石器時代は、中国やヨーロッパと異なり【A】。

日本では、かつては旧石器時代の遺跡はないものとされていたが、第2次世界大戦後に(11)が(12)とよばれる赤土層から(13)遺跡を発見して以降、各地で旧石器時代の遺跡が発見されている。現在までに確認されたもっとも古い時期の遺跡は宮城県の(14)遺跡で、約(15)万年前のものと考えられている。

問1 (1) - (15)に入る語句または数を記号で選べ。

ア．沖積世 イ．完新世 ウ．更新世 エ．上高森 オ．馬場壇 カ．岩宿  
キ．打製 ク．擦文 ケ．磨製 コ．マイクロリス サ．ブレイド シ．氷河  
ス．ナウマン象 セ．マンモス ソ．オオツノジカ タ．明石 チ．三ヶ日  
ツ．牛川 テ．関東ローム層 ト．相沢忠洋 ナ．直良信夫 ニ．4  
ヌ．20 ネ．60 ノ．400

問2 文中の【A】に入れる文としてもっとも適切なものを一つ選べ。

ハ．家畜の飼育や農耕が行われていた。

ヒ．家畜の飼育は行われていたが農耕は行われていなかった。

フ．農耕は行われていたが家畜の飼育は行われていなかった。

ヘ．家畜の飼育や農耕は行われていなかった。

第3問 土器について( )に入る語を記号で答えよ。(10) 32

縄文時代は土器を基準に6期に分類される。縄文土器の基本の形態は、煮炊きに用いられた深鉢である。早期には軟らかい土に底部をさして使用する(1)深鉢が多く、前期には(2)深鉢が出現した。中期には装飾を凝らした(3)土器がみられ、後期には急須のような形の(4)土器もある。また、晩期には(5)式とよばれる精巧なものが現れた。

弥生土器の基本形態としては、貯蔵用の(6)、煮炊き用の(7)、食物を盛るための(8)などがあつた。

縄文土器と弥生土器を比べると、前者は(9)・厚手・もろいという特徴があり、後者は(10)・薄手・堅いという特徴がある。ただし、製陶技術の点ではろくろを用いず野焼き

であるなど、本質的な変化はない。

(語群) ア・黒褐色 イ・赤褐色 ウ・青磁色 エ・白磁色 オ・平底  
カ・尖底 キ・亀ヶ岡 ク・かぐや姫 ケ・火炎 コ・注口 サ・甌  
シ・壺 ス・甕 セ・高杯

第4問 縄文文化について( )に入る語を記号で答えよ。(15) 47

縄文人は、地面を掘り下げ、その上に草葺きの屋根をかけた住居に住んでいた。これを(1)住居という。彼らは狩猟・漁労・採取によって生活していたが、縄文晩期には西日本で稲作が行われたことを示す遺跡が見ついている。

狩猟では弓矢も使われ、矢の先端には石の(2)が付けられた。漁労では網のおもりとして(3)が使われた。採取した木の実をすりつぶして粉にするために(4)とすり石が使われた。ゴミ捨て場で貝類や骨などが層をなした遺跡がある。これを(5)という。日本の近代考古学は1877年にアメリカ人(6)が大森(5)を発掘調査したことに始まる。

縄文人は、広範囲の交易を行っていたようである。石器の材料になる(7)や、装飾品となる(8)など、産地に限られる物資が広い範囲で見ついている。(7)の産地としては長野県の(9)、(8)の産地として新潟県の(10)流域が有名である。

縄文人は、自然物に精霊を見いだしていた。このような考えを(11)という。そして災いを逃れたり豊かな自然の恵みを祈願するさまざまな(12)的風習を行った。女性をかたどった土製品である(13)、歯を抜き取り成年式の意味を持つと考えられる(14)、死者を恐れ手足を折り曲げた(15)などである。

(語群) ア・アニミズム イ・モース ウ・ひすい エ・土偶 オ・呪術  
カ・抜歯 キ・貝塚 ク・石皿 ケ・屈葬 コ・鏃 サ・竪穴 シ・横穴  
ス・黒曜石 セ・火曜石 ソ・和田峠 タ・姫川 チ・石錘 ツ・伸展葬

第5問 弥生文化について( )に入る語および写真を記号で答えよ。(20) 67

縄文時代の終わり頃、(1)耕作と(2)の使用を特徴とする文化が(3)におこった。弥生文化である。初期の(1)耕作では、水田は低湿地に開かれた(4)であった。後には、灌漑施設を備えた(5)となり、生産力が向上した。水田に籾を直接播く(6)が一般的だったが、一部では田植えも行われていた。田植えが行われたことを示す遺跡として岡山県の(7)遺跡がある。収穫は(8)を用いて(9)という方法で行った。収穫物は(10)に収納され、(11)と(12)で脱穀した。それを(13)で蒸して食べたのである。

(2)には、権威の象徴としての(14)と、実用品としての(15)とがあった。前者には、(3)を中心に分布した(16)、瀬戸内海や山陰を中心に分布した(17)、近畿地方を中心に分布した(18)がある。(17)は写真の(19)であり、(18)は写真の(20)である。

(語群) ア・金属器 イ・高床倉庫 ウ・石包丁 エ・湿田 オ・乾田  
カ・水稻 キ・直播 ク・根刈 ケ・穂首刈 コ・菜畑 サ・板付  
シ・百間川 ス・甌 セ・青銅器 ソ・鉄器 タ・銅剣 チ・銅鐸  
ツ・銅矛・銅戈 テ・竪杵 ト・木臼 ナ・九州北部 ニ・北海道

(写真) A . B . C . D .

第6問 ( )に適切な語句を記せ。(14) 8 1

弥生時代の住居は縄文時代とあまり変わらなかったが、集落には変化があらわれた。溝や土塁で周囲をめぐらした防衛的集落である(1)集落や、近畿から瀬戸内にかけて沿岸の山頂・丘陵上につくられた(2)集落のように、軍事的役割をもった集落が出現したのである。これは、農耕社会の成立とともに争いの時代になったことを示している。

集団の支配者の力が強まり、墓のつくりかた(墓制)にも変化が生じた。土器の中に死者を埋葬した(3)墓や、自然石の支柱の上に大きな平石をのせた(4)墓が九州北部に現れた。また、板状の石を組み合わせた(5)墓もみられた。近畿地方では、低い方形の墳丘の周囲に溝をめぐらした(6)墓が出現した。西日本には、盛り土をして他と区別した特定人物の墓である(7)墓が出現した。

第7問 次の史料を読んで問に答えよ。なお設問の都合で一部省略している。(15) 9 6

(史料A)

「建武中元二年、倭の奴国、奉貢朝賀す。(中略)賜ふに印綬をもってす。」

(史料B)

「夫れ楽浪海中に倭人あり。分れて百余国と為る。( )。 」

(史料C)

「その国、本また男子を以って王となし、住まること七、八十年。倭国乱れ、相攻伐すること歴年、乃ち共に一女子を立てて王となす。(中略)鬼道に事え、能く衆を惑はす。景初二年六月、倭の女王、大夫難升米等を遣はし郡に詣り、天子に詣りて朝貢せんことを求む。その年十二月、詔書して倭の女王に報じていわく、「(中略)今汝を以つて( )となし、金印紫綬を仮し、装封(後略)」

問1 史料Aの下線部は西暦では何年か。

問2 史料Aで印綬を与えた皇帝は誰か。

問3 史料Bの下線部「楽浪郡」は、現在のどのあたりか次から一つ選べ。

ア．ソウル イ．ペキン ウ．ピョンヤン エ．ホーチミン

問4 史料Bの( )の部分に書かれている内容として適切なものを次から一つ選べ。

ア．未開の民族であり言葉が通じない。

イ．定期的に貢ぎ物を持ってきていた。

ウ．住民は一年中はだして暮らしている。

問5 史料Cの「その国」の位置はいまだ謎であるが、近畿説と九州説に大別される。これに関する説明として正しい文を一つ選べ。

ア．近畿説をとれば、3世紀には近畿から九州の広域連合国家が成立していたことになる。

イ．「その国」の位置の記述について、方角が正しいとすると近畿説になる。

ウ．「その国」の位置の記述について、距離が正しいとすると九州説になる。

エ．九州説をとれば、「その国」はのちに東方の大和政権によって統合されたことになる。

問6 史料Cの( )に入る語を漢字4字で記せ。

問7 史料Cの下線部は誰のことがか。

問8 史料A、B、Cの史料名を記せ。

第8問 次の地名の位置を地図上の記号で選べ。(4) 100

(1) 志賀島 (2) 三内丸山遺跡 (3) 荒神谷遺跡 (4) 和田峠

地図略